

隊員募集要綱

わたし × 地域

あなたが変わる1年間



宮崎県日之影町



石川県白山市



福井県坂井市



愛知県豊根村



長野県泰阜村



宮崎県諸塚村

緑のふるさと協力隊では農山漁村で暮らしながら

地域のお手伝いをする1年間のチャレンジ。

五感をフル稼働させ、生きること、働くことと向き合う時間がそこにあります。

あなたも「生きる」を実感してみませんか？



第33期 緑のふるさと協力隊

活動期間 2026年4月2日(木) - 2027年3月14日(日)

参加資格 18歳～概ね45歳までの人/参加期間を通じ、現住所を離れて活動できる人

後援 | 内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、全国市長会、全国町村会、全国山村振興連盟、(公財)日本離島センター、日本青年団協議会、(公社)国土緑化推進機構、NHK、全国水源の里連絡協議会、特定非営利活動法人中山間地域フォーラム



緑のふるさと協力隊



特定非営利活動法人
地球緑化センター

この地で
この人たちと
もっと暮らしたいと
思いました





緑のふるさと協力隊は 若者が農山漁村で暮らしながら
地域のお手伝いをする 1 年間のチャレンジ
地域を元気にしたい農山漁村と自然の中で
思いきり体を動かし夢中になれるものを求める
若者たちの思いをつなげてきました

一生懸命に動く隊員を地域の人たちは
あたたかく迎え入れ 優しく見守ってくれます
そこにあるのは 多くの人との出会い
つながり たくさんの学び
地域の人たちと一緒にあって 悩み 考え
動いているうちに
いつしか見えてくる
自分の「こう生きていきたい」という思い

「どんなふうに仕事をしようとも 大切なのは
自分の気持ち・生きかた」と語る隊員たち
五感をフル稼働させ 生きること
働くことと向き合う時間が そこにあります
あなたも「生きる」を実感してみませんか？

「緑のふるさと協力隊」をひも解く 5つのキーワード



KEY
WORD

1年間チャレンジ

「緑のふるさと協力隊」として過ごす1年間は、地域の思いに耳を傾け、住民と共に動き、語り、汗を流す日々。活動に加えて、祭りに参加したり、地区清掃に協力したりと農山漁村らしい近所づきあいをしながら、住民の顔が見える地域密着型の活動と暮らしで地域にどっぷりつかります。なりわいや四季の暮らしを通して農山漁村について深く知ることは、地域づくりの経験を積む絶好の機会といえるでしょう。



KEY
WORD

866人・32年間



1994年にスタートした協力隊には、32年間で866人の若者が参加しました。若者に求められるのは思い切り動く情熱と、謙虚に学び、地域の応援者になろうという思い。地球緑化センターでは、これまでの活動の積み重ねを基に練られた研修や相談体制で、受入先自治体と協力しながら隊員をサポートしています。慣れない土地での活動や暮らしでは、時には悩んだり助けが必要なこともあるかもしれませんが、隊員の頑張る姿をたくさんの人が応援しています。

▶活動と暮らし ▶1年間のすごしかた



KEY
WORD

月5.5万円の暮らし

協力隊は社会貢献活動という位置づけのため、給料はありません。その代わりに1年間暮らすための住居と水道光熱費が用意され、活動支援金として毎月5.5万円が支給されます。必要なものは何でも「買う」都会の生活とは違って、農山漁村の暮らしは「工夫する」知恵にあふれています。畑で野菜を作ったり、ご近所からおすそ分けが届いたり。自ら手を動かし、また助け合いに支えられながら、5.5万円だからこそ心豊かな毎日が待っています。

▶現地生活について ▶先輩の活動



KEY
WORD

地域×あなた=∞



協力隊の活動は、農林畜産業から観光、福祉や教育、地域行事や伝統文化まで、地域社会を支える多種多様なお手伝い。それらを通して生き方の手本となる人や、あこがれの家族像など、人生の糧となる多くの出会いがあります。一方、農山漁村にとっては、若者が地域に飛び込むことに意義があります。隊員一人の力は小さくても、その懸命な姿が励みとなり地域が動く原動力に。言葉や習慣などのギャップも刺激となり、隊員の感性が新しい風となるのです。

▶活動と暮らし



KEY
WORD

約4割が定住

隊員たちは活動終了後、農山漁村に定住するなどし、農林畜産業、行政、観光、福祉、教育、食、地域づくりなど様々な分野で活躍しています。人とのつながりを深めるなかで「どこかに就職する」というよりも「どこでどうやって生きるか」という視点を育み、生き方を選んでいきます。また、1年間暮らした地域は「第2のふるさと」。まるで地域がひとつの家族のような、あたたかくて、いつでもふらっと「帰れる」場所になるはずです。

▶活動終了後の進路



受入先と参加者

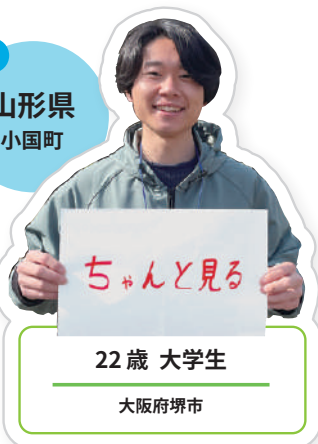
〈2025年度(32期)緑のふるさと協力隊〉

隊員数	平均年齢	受入先自治体数
10名	23.5歳	10市町村

隊員
構成

男女比：男性3名、女性7名
前職：社会人3名、学生7名(うち休学5名)

1
山形県
小国町



22歳 大学生

大阪府堺市

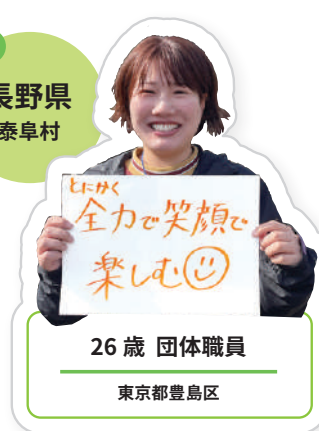
2
群馬県
上野村



22歳 大学生

東京都葛飾区

3
長野県
泰阜村



26歳 団体職員

東京都豊島区

4
愛知県
豊根村



20歳 大学生

神奈川県横浜市

5
石川県
白山市
(白峰地区)



21歳 大学生

沖縄県うるま市

7
岡山県
鏡野町



21歳 大学生

東京都八王子市

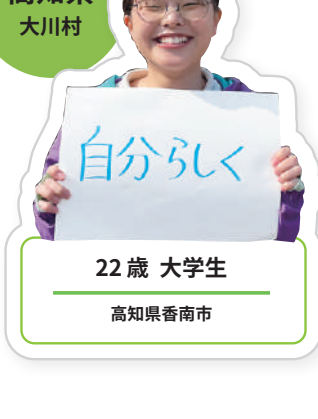
6
福井県
坂井市



26歳 大学生

石川県金沢市

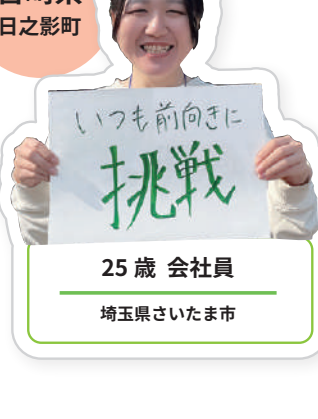
8
高知県
大川村



22歳 大学生

高知県香南市

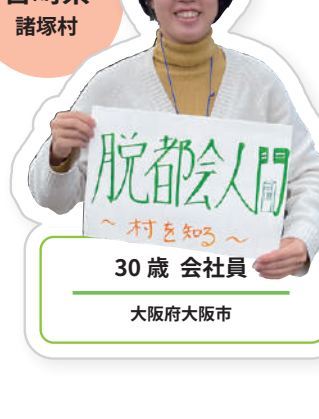
9
宮崎県
日之影町



25歳 会社員

埼玉県さいたま市

10
宮崎県
諸塚村



30歳 会社員

大阪府大阪市

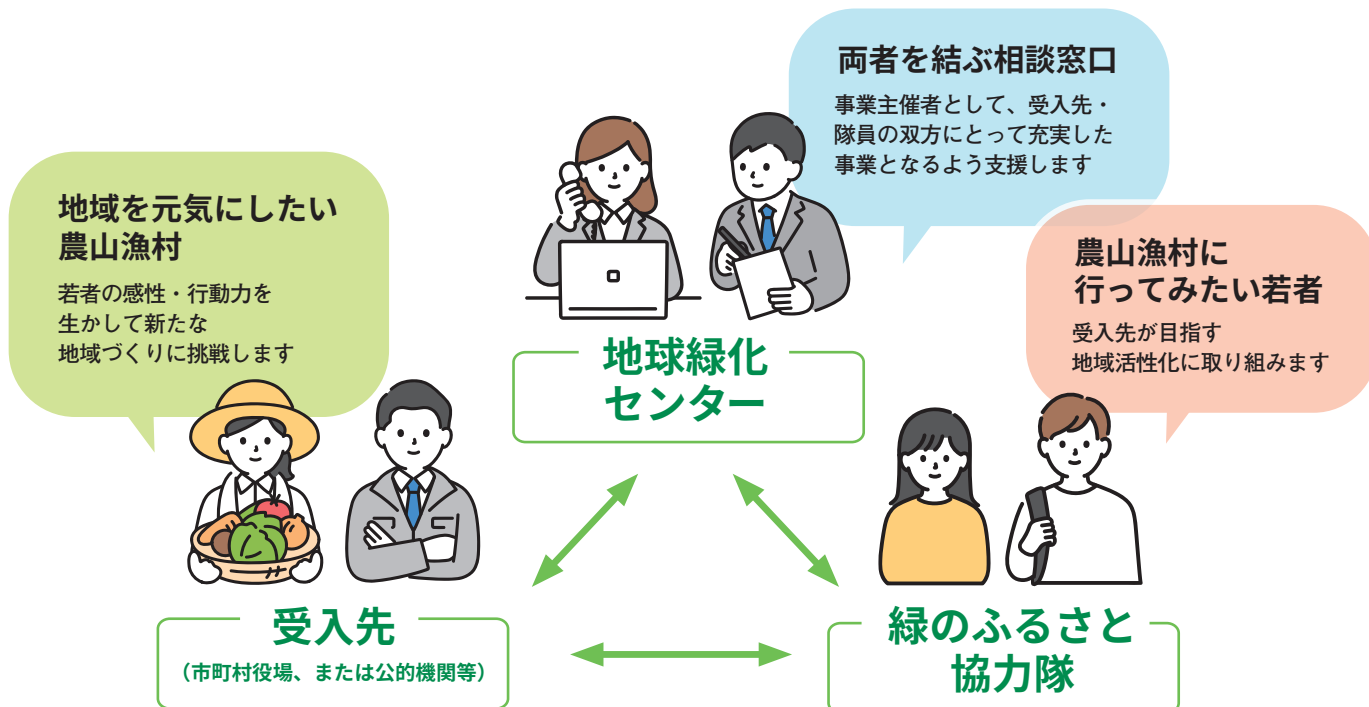


年齢 参加前職業
参加前住所

※年齢は2025年4月1日時点
※MAP内〈〉の数字は受入回数

活動と暮らし

充実した1年にするため、隊員・受入先（行政など）・地球緑化センターの3者がスクラムを組みそれぞれの役割を担っています。緑のふるさと協力隊には、特別なスキルや資格は求められていません。地域の方と一緒に動かし、語り、暮らすこと。隊員の一生懸命に取り組む姿そのものが、農山漁村の活力につながります。



こんな活動があります



活動のすすめ方

協力隊の受入窓口は、市役所、町村役場または公的機関等です。主に農林漁業や地域振興を担当している部署などが窓口です。その職員が「受入先担当者」として隊員の活動の調整や暮らしのサポートをします。

受入先が隊員のための活動プログラムを用意しています。まずは用意された活動に一生懸命取り組んでください。

だんだん活動や暮らしに慣れて余裕が持てるようになれば、活動の内容にも自分なりの希望が出てくるでしょう。その時は担

当者とよく話し合い、自分なりの活動目標を組み立てていけば、実りある活動となるでしょう。

隊員の活動は受入先が用意した活動だけではありません。多くの人と交流を深めるために自分の時間を活用して地域の行事や集落活動に積極的に参加しましょう。

地球緑化センターも電話や必要に応じた訪問などでサポートします。問題が起きたら抱え込まず自分からも相談しましょう。



農業・林業

農業…野菜・米・花卉・果樹栽培収穫／観光農園手入れ／農協（ラベル貼り、育苗センター苗運び）／米検査など
林業…森林組合（下草刈り・枝打ち・間伐など）／伐採木の片づけ／炭焼き／登山道・林道整備／竹林整備／木材加工／林産物生産（きのこ類・山菜）／台風被害記録



畜産・漁業

畜産…牛舎清掃整備／牧柵整備／和牛コンテスト／衛生検査／注射／放牧調査／イノブタ飼養／牛のセリ市／養鶏など
漁業…トビウオ漁／海苔工場／アユ放流／養魚池整備／カキ漁など



食・特産品づくり

農産物加工…大豆加工（豆腐・きな粉）／味噌／ジャム／こんにゃく／山菜など
保存食・伝統食づくり…郷土料理レシピまとめ／五平餅／ちまき／しそ餅／凍み豆腐／凍み大根など
特産品開発…住民アンケート実施／地域の銘菓開発（梨蜜・ボン菓子・桜の花塩漬）



観光・イベント

地域行事…山開き／餅つき／山の神祭り／七夕祭り／民俗芸能祭／夏祭りなど
伝統芸能…祭り／夜神楽／農村歌舞伎／和太鼓／よさこい／阿波踊りなど
観光…道の駅／キャンプ場／国民宿舎／観光案内所／体験施設／物産館／直売所／出張物産販売など
地域おこしイベント…山菜まつり／キャンドルナイト／マラソン大会／花火大会など



活動事例



教育・子ども

学校行事…読み聞かせ／清掃登山／ALT 英語講師補助／プール清掃／運動会／学童保育／音楽会／図書館の本整理／自然学校指導補助／体験学習受入（村内・都市部）
山村留学施設…指導員補助／食事補助／子どもたちのお世話
公民館…公民館・児童館行事／文化祭／資料館・交流館受付対応／スポーツセンター



情報発信

ケーブルテレビ取材・番組キャスター／FMラジオ出演／ブログ・SNS 更新／ホームページ更新／広報誌連載／自主制作新聞



集落活動

青年団／消防団／婦人会／自治会／子ども会／老人会／寺社清掃／側溝泥上げ／集落見回りなど



手しごと

木工細工／竹細工／わら細工／つる細工／正月飾り（しめ縄・門松）／紙すき／桐下駄／染め物など



生活維持

草刈り／雪かき／冬支度／クリーンアップイベント／獣害対策（鹿よけ網・イノシシ箱わな設置）／薪割りなど



役場事務手伝い

交通量調査／防火訓練／歳末夜間パトロール／転作確認／観光パンフ・マップ作成／水質調査／獣害調査／選挙運営手伝い／台風被害復旧作業など



福祉・お年寄り

福祉施設…ふれあいサロン・デイサービス／社協作業所／リハビリセンター／保健センター／健康診断手伝い
自宅訪問…高齢者住宅巡回（聞き取り・配食サービス）／高齢者宅清掃（窓ふき・障子張り）

1年間のすごしかた

協力隊の年間活動スケジュール（予定）

4月

事前研修（4月・4泊5日）



参加する協力隊全員が集まり、講座やフィールドワークを通して、現地活動に向けての心構えを学びます。また、活動先は違えども1年間を共にする心強い同期の仲間との絆を深めます。

4月

現地活動の開始

事前研修地から直接受入先へ向かいます。到着後、受入先担当者から活動と生活についてオリエンテーションを受けます。挨拶回りが終わったら、早速活動スタート。

START!



7月

受入先訪問

地球緑化センター事務局が受入先を訪問し、隊員や受入先担当者らと面談をします。



9月

中間研修（9月・2泊3日）

活動や暮らしにもすっかり慣れてきた頃。前半の活動を振り返り、後半に向けて目標を再確認したり、気持ちを新たにする研修です。半年ぶりに同期に会い、刺激を受けることも。中間研修で得たヒントを持ち帰り後半の活動に活かしていきます。

1月

進路相談

任期終了後の進路について、地球緑化センターや受入先が相談にのります。

3月

総括研修／活動報告会（3月・3泊4日）

1年間の活動をまとめる研修です。報告書の作成とともに「活動報告会」を開催し、活動の成果を報告します。

GOAL!



✓ 報告書の提出（当センターへ提出）

各月ごとに「活動レポート」、研修ごとに「報告書」を作成し提出します。

✓ 「ふるさと通信」の発行

隊員が持ち回りで、地域の様子を「ふるさと通信」として発行します。地元の人にも気づかなかった地域の魅力や課題などを自分の言葉で伝えていきます。

活動するにあたっての心構え

> 地域の人たちの信頼を得る

まずは用意された活動に誠実に取り組み、地域から求められる役割を理解して、周囲の人たちとの間に信頼関係を築きましょう。ひとりの社会人としての自覚が求められます。

> ルールを守る

活動は受入窓口となる役所をはじめ地域の方々による目に見えない配慮や準備があって成り立ちます。あいさつや連絡、時間を守るなどのルールと共に、地域の伝統や慣例を尊重し、柔軟に対応・実践しましょう。

> 謙虚な学びの姿勢

活動の中で、未知の事実や考え方に会えることもあるでしょう。そんな時、一方的に自分の考えを相手に押し付けるのではなく、謙虚な気持ちでそれらを受け入れ、学ぼうとする姿勢が大切です。

> 自分から動く

困難にぶつかったり、悩んだりしたときは、周りのせいにならず、まずは自分にできることを精一杯やってみる前向きな姿勢を持ちましょう。もちろん事務局も年間を通してサポートします。

現地生活について

参加者が負担するもの

- ① 参加費 40,000 円
- ② 交通費 自宅→事前研修地 総括研修地→自宅
- ③ 健康保険料、年金保険料

※協力隊参加に伴い、年金保険や健康保険等社会保険の切り替えが生じる場合は各自で手続きを進めます（健康保険の扶養家族「遠隔地健康保険証」発行や、国民年金の納付猶予手続きなど）。その際、証明書が必要となる場合は地球緑化センターから「参加証明書」が発行できます。必要な人は申し出てください。

- ④ 引越し費用（運送費）
- ⑤ 一時帰省など自己都合による費用

車両について

- ① 隊員のための車が用意されています。到着後すぐに運転をすることになるので、不慣れな人は必ず運転の練習をしておいてください。
- ② 万が一に備え、保険に加入していますが、事故の状況によっては修理代を隊員が負担する場合があります。
※普通自動車運転免許取得必須

休日について

- ① 受入先の規定に準じます。
- ② 年1回（2泊3日まで）の帰省が認められています。ただし、家族に万が一のことがあった場合や就職試験などの場合は、特別休暇を取ることができます。
- ③ 受入先の同意が無い場合は、活動地を離れることができません。

保険について

当センターでは、隊員が活動中ケガをしたり、誤って他人のものを壊してしまった場合等、万が一に備え、以下のような保険措置を隊員全員に講じます。事故が生じないように常に隊員各自責任を持って健康管理に取り組みます。なお、危険を伴う活動を行う場合（例：チェーンソー等動力を使用する、カヌー・ラフティング等海や河川でのスポーツが含まれる活動をする）は、受入先担当者に相談し、必ず十分な研修を受け、別途保険に加入してください。

普通傷害保険 活動中以外の時間に何か起こった場合にもサポートできるよう、24時間補償タイプの傷害保険に加入します。

適用範囲 24時間補償タイプ **補償期間** 協力隊活動期間（研修中も含む）

ボランティア保険（賠償責任保険・傷害保険）

適用範囲 活動中に協力隊員が傷害を受けた場合、あるいは第三者の身体・財産に損害を与え、慰謝料・見舞金・賠償金を請求された場合
補償期間 協力隊活動期間（研修中も含む） **補償内容** 下表の通り（参考：2025年度版）

A：賠償責任保険

対物事故 1事故につき5億円（限度額）
対人事故 1事故につき5億円（限度額）

B：傷害保険（協力隊員自身の事故）

通院 7,000円／1日（最大90日） **入院** 12,000円／1日（最大180日）
後遺障害 後遺障害の程度に応じて、死亡・後遺障害保険金額の100%～42%
死亡 1,700万円

用意されているもの

① 住居・生活備品

隊員の住む場所、水道光熱費、基本的な生活備品（寝具、炊事用具、冷蔵庫、洗濯機、暖房器具など）

② 活動支援金 月額55,000円

当センターから毎月末、各自のゆうちょ銀行総合口座に振り込まれます。活動開始までに口座開設の手続きをしてください。

③ 現地活動費

活動に伴う移動手段（車、バイク）や交通費、活動に必要な道具類など

④ 研修の経費

研修に参加するための交通費（事前研修地→受入先、受入先⇄中間研修地、受入先→総括研修地）及び宿泊費

⑤ 活動中の保険料（下表参照）

住居について

- ① 隊員は予め決められた住居で生活します。
- ② 1年間自炊して過ごすための基本的な生活備品（寝具、炊事用具、冷蔵庫、洗濯機、暖房器具など）が用意されています。これまでの生活と比べ不便と感じるかもしれませんが、地域の方々から暮らしの知恵を学びながら、工夫をこらし、生活します。
- ③ 自炊することが原則です。住居を丁寧に使いながら、健康的で規則正しい生活を心がけます。

先輩の活動

case: 1

第31期（2024年度）福井県坂井市 協力隊員



1年間の流れと感想

- 4月** 挨拶回り、しだれ桜まつりの手伝い、山菜採り、害獣駆除、畑をお借りして作業
挨拶周りをしていると「よく竹田に来てくれた」、「今度、ご飯を食べよう」と
言ってくれるのでとても馴染みやすいなと感じました。
- 5月** 福井テレビの取材、三国祭り、田植えの手伝い、アユの放流、自然薯の植え付け、
近隣周辺の草刈
山菜組合でゼンマイの乾燥と茹でる手伝いをした。乾燥と茹でる時間が決まっており、
少しでもミスをする商品にならないとのことで緊張しながら作業にあたった。
- 6月** 猟友会の手伝い、グランドゴルフ、地域イベントの手伝い、漁業組合の手伝い
猟友会の方と市役所の猟友担当の方と買の確認をした。3カ月に一度許可書の更新を
するとのことなので参加した。竹田内に13個ぐらい買があってびっくりした。
- 7月** クマの駆除お手伝い、担当者と打合せ、キャンプ拠点の清掃、
デイサービスの笑日楽での手伝い
マタタビの実が生っているので採りに行った。初めてマタタビを見たが匂いは
とくにしなかった。酒が良いらしいがジャムにしてみる。
- 8月** 三国花火大会、活動の発表会、ピザ焼き、ふるさと通信の作成、農作業
地域の方から川にかご罟を仕掛けたということで一緒にについて行った。
モクヅガニが10匹ぐらい入っていた。
- 9月** 三里浜の見学、中間研修、霞太鼓の練習、避難訓練、稲作収穫手伝い
三里浜の新規就農者の方への見学をした。ミディトマトの収穫とバック詰めをやらせて
もらった。その後、他の新規就農者の方のところに行きお話を聞くことが出来た。
- 10月** 農作業（降雪に備える準備）、高校の授業参加、地域活動（神事の稲刈り、歴史資料館
プレオープン）、森林セラピー参加
一日、古城祭りがありました。午前中は武者行列に参加しました。午後には総踊りに
参加しました。総踊りでは敢闘賞をとることができました。
- 11月** 文化祭、若葉のふるさと協力隊、鹿の皮なめし、自然薯掘り
笑楽日祭の本番である。火起こしの手伝いをした後、若葉で自然薯掘りをしてもら
うので準備をした。夜は笑楽日祭の片付けを手伝った。
- 12月** ブロック交流会、共栄会の忘年会、餅つき
たけだ文化共栄会の忘年会があり、隊員として参加した。クイズとカラオケ大会があった。
優勝はできなかったが、ユニーク賞をとることができた。
- 1月** かき餅づくり、狩猟（くくり罠）、どんど焼き準備の手伝い
ここ数年は雪の量が減って楽になったと言っていました。雪の量が減ったので、
1月は一回も雪下ろしをすることがありませんでした。地域の方からすれば雪かきや
雪下ろしをしないのは楽でしょうが、一回ぐらいはしてみたいと思います。
- 2月** どんど焼き、スノーパーク、まちづくりカレッジ
どんど焼き本番だった。曇ってはいたが雨が降ることはなかった。どんど焼きを
やった時に花火も上がり、盛大に行われた
- 3月** 報告会、4月からの準備
緑として一年間活動できて、大変だったことや楽しかったことが沢山ありました。
竹田で一年間活動できてよかったなと改めて思う機会でした。報告会には池田市長も
来てくださったので、驚きました。



ある日のスケジュール

- 6:00 起床
竹内さんに連絡して何をするか決める
- 8:00 作業開始
- 11:00 終了
- 12:00 お昼
- 13:00 昼寝など
地域の方のおしゃべりも
- 15:00 畑作業
基本自炊だがたまに飲み誘われる
- 18:00 夕食
- 19:00 入浴
- 20:00 活動レポート
活動中に見逃していた
気づきを得られる！
- 22:00 就寝



休日の過ごし方

休日は竹田地区の方からお借りした畑
で作業をしていました。夏にはナス、
ピーマン、トウモロコシなど、冬には
白菜や大根を育てました。作った野菜
は自分で食べたり、実家に送ったり地
域の方におすそ分けしました。



印象的なエピソード

印象に残っているのは10月にあった
古城祭です。丸岡城の歴代当主役を
するためだけに髭を約5ヶ月間、伸
ばし続けました。髭があったおかげで
当主の格好も様になっていました。祭
りの後に地域の方々とお酒を飲んだの
も良い思い出です。

case: 2

第30期 (2023年度) 宮崎県日之影町 協力隊員



1年間の流れと感想

- 4月** 挨拶回り、地域の行事（山菜祭り、大日止歌舞伎）、地域の活動（一心園（お茶）、旬果工房テラス（ジャム））
挨拶回りに行くと、どこでも「今年も緑の子来たね。」と声を掛けられた。
昨年度までのOBOGの方の存在の大きさを感じた。
- 5月** 稲の種まき、植樹用の苗の準備、わらび粉づくり、地域の活動（宿泊学習参加、唐揚げフェス、川開き）
作業をしながら話す中で、地域のことを考えている人が多いと感じた。特に、今あるものをどのようにして残していくかという話をよく聞いた。高齢化が進む中で町を維持し続けることの難しさを感じた。
- 6月** 農作業（田植え、梅ちぎり）、わら細工、用水路掃除、青雲朝市、日之影中学校の近未来会議見学
日之影中学校の近未来会議に参加して、日之影町の課題を解決する難しさを感じた。どの問題でも解決のポイントとなるものは“ヒト”だと思った。
- 7月** 地域活動（梅シロップ作り、田んぼ除草、キンカン摘果）、大人集落の水神祭り、近未来会議のフィールドワーク
赤字でも畑や田んぼを荒らさないために続けている農家の方が多いと知った。
6次産業化することも持続可能な農業のためには必要なことではないかと考えた。
- 8月** 地域の活動（山学校、「夏まつりひのかげ」、ソフトボール大会）、農作業手伝い（キンカン摘果、トマト収穫）
「夏まつりひのかげ」のお手伝いをして、日之影に知っている人がたくさんできたと感じた。声を掛けてくれる人や手を振ってくれる人がたくさんいて嬉しかった。
- 9月** 中間研修、農作業（栗拾い、草刈り、ヘチマ収穫）、地域の活動（大日止歌舞伎、ミニバレー大会）、若葉の受け入れ準備
中間研修があり、もう半年経ったのだと時間の速さに驚いている。あと半年何を頑張るか、また、やりたいことを活動に落とし込む方法を考えていきたい。
- 10月** 若葉のふるさと協力隊受け入れ、渓谷祭り、農作業（栗の皮むき）、地域活動（大日止神楽）
渓谷まつりにあわせて町主催の緑のふるさと協力隊30周年事業が行われ、日之影に派遣された歴代隊員の方たちにお会いできた。節目の年に来たからこそつながったご縁も沢山あった。
- 11月** 地域の活動（「第2のふるさと」、「わけものの主張」準備）、神楽まつり、わら細工（しめ縄づくり）、農作業（芋ほり、柚子・かぼす収穫）
写真や動画など少しずつ好きなことが活動としてできるようになり、さらにそれをほめてもらえる環境で活動できていることが幸せだと感じた。
- 12月** 地域行事（「わけものの主張」本番、自遊学校防災キャンプ、夜神楽練習）、大根の漬物づくり、わら細工（しめ縄づくり）
しめ縄づくりは0から完成まで全て手作業で行われているところに魅力を感じた。手間を考えると値段以上の価値があるのではないかと感じた。
- 1月** 地域の行事（成人式、出初め式、餅つき、風揚げ、ひな人形の飾りつけ）、夜神楽本番、醸造所の手伝い
地域の方と「日之影の好きなところは人が優しいところなんです」と話していた時に、「人は鏡だから」と教えてくださった方がいた。すごく素敵な考え方だなと感じた。
- 2月** 田おこし、炭焼見学・炭だし、日向夏の収穫、芋餅づくり、味噌づくり、町民の集い（広報用カメラマンとして）、挨拶回り
2月後半から挨拶回りを始めた。ご挨拶に伺う人をリストにしていたら、この1年ですごくたくさんの人に関わっていただいたのだと知った。
- 3月** 活動報告会、地藏さんで神楽奉納、挨拶回り
挨拶回りで「また帰っておいで」とか「いつでも待ってるよ」と言っていた。いつでも帰ってこれると思えるような場所になったことが嬉しい。



ある日のスケジュール

7:00 起床 & 支度

お昼のお弁当に、おにぎりとお菓子を作る。

9:00 自遊学校手伝い

13:00 出発

14:00 集落のお祭り

17:00 夕食

地域の方とお食事。
郷土料理の煮しめなど
ご馳走がたくさん！

20:00 帰宅 & 就寝準備

22:00 就寝

次の日のため
早めに寝ます！



休日の過ごし方

地域の方のお家にお邪魔してご飯を食べさせていただくことが多かった。活動中には時間がなくて話せなかったことや活動ではお会いすることが難しい方とお話できたことで、地域のことを深く知り、自分自身の生き方や将来像を考えられる時間となりました。

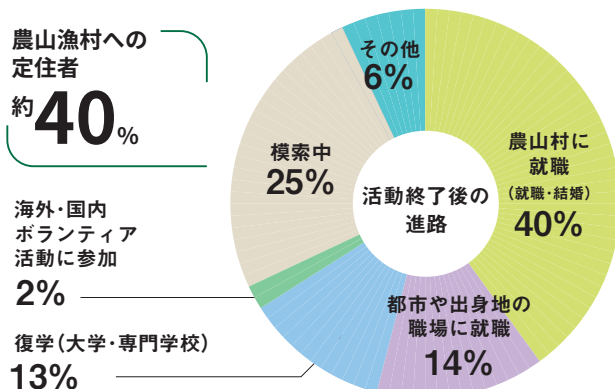


印象的なエピソード

中学校の近未来会議でのエピソードです。中学3年生の生徒さんと話している際に、日之影町が好き、一度町を出たとしてもいつかは日之影町に戻ってきたいという声を聞きました。住んでいる子ども達が自分の住んでいる町を好きだと思えるような環境であることがとても素敵なことだと感じました。

活動終了後の進路

活動終了後、約4割の隊員が定住します。進路について多くの隊員が語るのは、活動の経験から「生きる・働く」将来像が具体的になったということ。いくつかの仕事を組み合わせて暮らしを営んだり、地域づくり活動をステップアップさせて独立・起業したりと、新しい働き方、生き方に挑戦しています。また活動終了時は「模索中」でも、数か月後には都市や農山漁村で進路を見つける人がほとんどです。地域との信頼関係やつながり、経験が自分らしい選択を後押ししてくれます。



活動終了後にはこんな仕事・進路をえらんでいます

農業（百姓、農業法人、農家レストラン）、森林組合、漁業、地域づくりコーディネーター、地域おこし協力隊、集落支援員、手仕事・職人（竹細工、茅葺き、革製品作家、木工）、大工、行政（県職員、市町村職員、外交官）、観光協会、社会福祉協議会、NPO法人、教員（小学校、高校、大学）、塾講師、研究者、企業、新聞社、出版社、カメラマン、道の駅等観光施設、国立公園管理事務所、介護福祉、障害者福祉施設、図書館、市議会議員など

3月活動終了時調査
1994年度（第1期）- 2024年度（第31期）／856名



第21期隊員 | 高知県 | 和田将之さん

会社員 → 緑のふるさと協力隊 → 定住：地域おこし協力隊
→ 集落支援員 → 村議会議員、農業、ラーメン屋、行商

いまどうしていますか？

現在、村議会議員として2期7年目を迎えています。若者や移住者も含めた多様な価値観や才能を活かした村づくりを目指し、2019年に立候補しました。緑のふるさと協力隊で培った住民との繋がりを活かし、地域課題の解決に奔走する毎日です。また、農業や行商、ラーメン屋など、幅広い仕事に関わっています。プライベートでは、2016年に結婚して子どもも3人生まれました。妻の実家の古民家で、4世代8人の大家族で暮らしています。休日は地域の仲間とイベントをしたり、子どもと川遊びをしたり、充実した日々を送っています！

きっかけは？

生まれ育った群馬での虫取りや魚採りが、田舎を好きになった原体験です。学生時代に経験した東日本大震災も、自然との関わり方や自身の生き方を考える契機になりました。その後、一度は都市部で就職したものの上手いかず、将来を模索していた時に出会ったのが緑のふるさと協力隊でした。人生を変えるチャンスになるのではと期待し、応募しました。

協力隊を経験して感じたことは？

自治体が協力隊の受け入れが初だったこともあり、住民や行政の方と信頼関係を作るのに必死の毎日でした。挨拶回りから始まり、農作業や草刈り、集落行事、日曜大工や読み聞かせなど様々な活動をしました。無我夢中の毎日でしたが、村の若者たちとの交流や地域の飲み会など楽しいことも盛りだくさんでした。自然と調和し、伝統や人々の繋がりを大切にする昔ながらの暮らしが村には残っています。多様な人々が一体となって地域づくりに取り組む姿勢が、村の大きな魅力です。





第30期隊員 | 愛知県 | 益子 茜さん

会社員 → 緑のふるさと協力隊 → 定住：会社員

いまどうしていますか？

現在は村内の建設会社に就職しました。高齢者世帯を中心に電話一本でなんでも住宅の困りごとを解決するサービスの担当者と広報係をしています。建設業は未経験ですが、任期中に築いた村内の人脈が仕事に活かせることもあります。住宅の修繕から草刈り・蜂の駆除まで、村の方々の生活に関わるお仕事に携わることができ、やりがいに繋がっています。協力隊の経験を経て、仕事とプライベートどちらも大切にする生き方を意識するようになりました。

きっかけは？

前職の退職をきっかけに、環境を変え一社会人として多様な仕事を体験してみたいと思い応募しました。初めての一人暮らしで不安もありましたが、家や車など暮らしのサポートがあることも理由のひとつでした。

協力隊を経験して感じたことは？

「豊かさ」に対する価値観を考えるきっかけになりました。村の方々は皆温かく、都市部では考えられない器の大きさに受け入れてくれました。都市部から離れて決して便利とは言えない生活を送る中で物に依存しない生活を経験し、様々な年代・価値観の人と出会ったことで、自身を豊かにしてくれるのは「モノ」ではなく「ヒト」なのではと感じました。

第28期隊員 | 宮崎県 | 河内彩奈咲さん

大学休学 → 緑のふるさと協力隊 → 復学 → 学校教員

きっかけは？

将来的に教育現場で働くために、子ども一人一人に寄り添えるような多様な経験をしたと思っていました。多様な経験のうちの「田舎暮らしの経験」を積むために応募を決めました。

協力隊を経験して感じたことは？

多様な年代・職種の方と友人 / 家族のような関係性で本音で語り合えたことはとても大切な経験となりました。農家や会社員問わず、私生活と仕事の境目が曖昧で、自分の人生の中に仕事がある方がとても多かったのが印象的でした。私もいつかは自然豊かな場所で、自分が大切にしたいことを大切にできる仕事、生き方をしたいと思うようになりました。



いまどうしていますか？

現在は学校教員として、主に生徒の学校生活のサポートや進路指導を行っています。目の前の出来事や見えない未来に悩む生徒達には、「まだまだ知らないことはたくさんある」ということを伝えられたらと思っています。仕事が休みの時には、自然豊かな場所に行ったり、自分のこれからについて考えたり、協力隊の時に得た感覚を大切に暮らしています。



第2期隊員 | 宮崎県 | 中本 敦さん

大学休学 → 緑のふるさと協力隊 → 復学 → 大学教員

いまどうしていますか？

現在は大学教員として野生動物の研究をしています。あれから30年が過ぎました。今、仕事で獣害に向き合うたびに思い出すことは、受入先の自然とそこに暮らしていた人々です。「自然との共存」を実践することは実際にはそう簡単なことではありません。ですが、受入先の人々は自然にそれをやっていたように思えます。この道を選んだ理由はわかりませんが、この30年で新たに学んだことを使って恩返ししたい気持ちでいっぱいです。

進路に迷っているみなさん！少しでも今の生活に「モヤモヤ」を感じているなら、その一歩を踏み出してみてください。人生の長さを考えたら1年間の休学なんて大した問題ではありません。ここで出会う何かがきっとあなたの未来を変えます。



応募から活動開始までの流れ

活動期間

2026年4月2日(木)～2027年3月14日(日) ※事前・中間・総括研修含む

参加資格

- ① 健康な18歳～概ね45歳までの人
- ② この事業に情熱と意欲を持って参加できる人
- ③ 参加期間を通じ、現住所を離れて活動できる人
- ④ 全期間参加できる人
- ⑤ 普通自動車運転免許を持っている人(MT推奨)
※持っていない人は、活動開始前までに必ず取得してください。

参加申込書提出

(1) 参加申込書記入

参加申込書の用紙は、資料請求または地球緑化センターのホームページよりダウンロードできます。
手書き、またはデータ入力(Word文書)どちらかで作成してください。

参加申込書記入の際には、以下の事項に留意のうえご記入ください。

- ① 必ず本人が記入・入力してください(手書きの場合は、ボールペン使用のこと)。
- ② 休学して参加する学生は、保護者が所定の欄に署名捺印してください。
- ③ 顔写真は、胸から上の正面写真を貼付してください(スナップ写真は不可)。
- ④ 書類選考および面接選考では「応募動機」を一番重視します。自分の思いを率直に詳しくお書きください。

(2) 参加申込書の提出

応募締切:郵送、メールともに、**2025年12月19日(金)**必着で地球緑化センターに送付してください。

※提出いただいた参加申込書は、当事業の運営のみに使用し返却は致しません。

※活動先が多くなった場合には、二次募集を行うことがあります。

応募締切後は、地球緑化センター事務局へお問合せください。

書類選考

書類選考の結果は12月末までに郵送でお送りします。

- ① 面接選考会の案内
- ② 健康診断書用紙
- ③ 活動先及び活動内容一覧表
- ④ 活動先希望アンケート用紙

面接選考

東京(2026年1月17日(土))にて面接選考会を開催します(会場までの交通費は自己負担)。

面接選考は、グループ面接と個人面接を予定しています。

※応募状況に応じて、中京もしくは関西方面でも実施する場合があります。

主な内容

- ① 応募の動機などについて詳しくお聞きします。
- ② 現地活動への意志と意欲を確認します。
- ③ あなたの特性、希望をいかして何ができるかをお聞きします。

活動先決定のポイント

- ① 本人と活動先の希望を考慮しながら、応募者の持ち味がいかされるように配慮して決定します。
- ② 活動に集中し、異なる文化や歴史を体感してほしいとの思いから、原則として現住所や出身地から遠い地域での活動となります。

※選考内容についてはお答えできませんので、予めご了承ください。

隊員決定 参加同意書の提出

2026年2月中旬を目安に選考結果を通知します。

面接選考を通過した人には、「緑のふるさと協力隊参加同意書」をお送りします。参加同意書を提出していただき、これによって「緑のふるさと協力隊」としての活動が正式に決定します。ただし、事前研修中の健康状態などにより現地活動に耐えられないと判断される場合には、活動中止になることもあります。

活動に向けての 準備・ 活動開始

引っ越しについて

当センターより住居・生活備品等の詳細についてお知らせしますので、その案内に沿って準備を進めます。各自の荷物の送付は2026年3月下旬頃です。

事前研修について

研修会場や内容については改めて連絡します。事前研修が終了した後、そのまま活動先へ向かいます。

Q&A

説明会等で寄せられる質問をいくつかまとめました。

なお、募集説明会は各地で開催予定です。詳しくは、ホームページをご覧ください。

Q. 参加するにあたって、専門的な技術や資格は必要ですか？

P.13にある参加資格以外は必要ありません。まったく土に触れたことのない人や、ボランティア活動未経験の人も大勢参加されています。「農山漁村で1年間頑張ってみたい」という思いのある方なら誰でも大歓迎です。

Q. 月5.5万円で生活できるか不安です

これまでに生活が維持できずに活動を辞めた例はありません。“地域にあるもの”を工夫して暮らすように努力したり、時おり地域の方からお米や野菜のおすそ分けを頂いたりなど、5.5万円の暮らしだからこそ生まれる交流が1年間を面白くします。

Q. 普段、車の運転をしていないのですが…

協力隊に参加するために運転免許を取得した方、都会では運転の機会が少なく自信がないという方も多いです。現地では担当者の方にオリエンテーションも兼ねて地域内の案内をお願いしています。少しずつ道や運転に慣れていってください。

Q. 活動先は選べますか？

面接選考の前に活動先の資料を配布し、第3希望までお聞きします。必ずしも希望した活動先に決まるとは限りませんが、応募状況や活動先の特性などと合わせて、応募者の持ち味がいかされるよう総合的に判断して決定しています。

Q. 「地域おこし協力隊」との違いは何ですか？

「地域おこし協力隊」は、「緑のふるさと協力隊」をモデルにして総務省により創設された制度です。
【椎川忍氏（元総務省 地域力創造審議官）が著した「地域に飛び出す公務員ハンドブック（P.180）」参照】
どちらも農山漁村の活性化を目指すものですが、活動形態や活動内容に違いがあります（下表）。「緑のふるさと協力隊」の経験を活かし、その後「地域おこし協力隊」として活躍するOBOGも増えています。

	緑のふるさと協力隊	地域おこし協力隊
活動形態	地域貢献活動（地球緑化センターが応募者と活動先のマッチングを行う）	仕事（自治体との雇用関係）
期間	1年間 ※休学休職をしておの参加もOK	3年間（1年更新）
活動内容	農林畜産漁業・特産品加工・福祉・教育・伝統文化・集落活動・地域行事など、地域社会を支える多種多様な活動に幅広く取り組む 例：神楽、運動会、学童保育、道の駅、マルシェ…	定住を目的として自治体が定めたミッションに取り組む
待遇	生活支援金5.5万円/月の支給と、住居、生活に必要な備品類、活動車両（ガソリン代含む）、水道光熱費、研修ボランティア保険等が提供され、1年間安心して活動に取り組める体制が整っている	自治体により異なるが、毎月給与が支給され、住居費や車両等全て本人負担となる

「緑のふるさと協力隊」は、特別なスキルがなくても参加できるプログラムです。

「仕事」という枠を越え、地域の一員として自分の目で見て・感じて・体験することでたくさんの気づきや学びがあります。青年団、サークル活動、消防団など地域住民として暮らしを経験することも活動の一つ。いろいろな出会いや経験から、自分自身の可能性や価値観を広げていけるのも「緑のふるさと協力隊」ならではの魅力です。

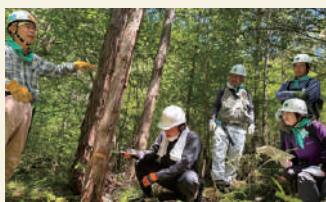


地球緑化センターは、「緑、人を育む」をテーマに、社会の在り方や人の生き方を見つめてきました。環境問題、農山漁村の過疎化などの社会の課題に対し、市民ひとりひとりが自ら考え行動できるよう、多彩なボランティアプログラムの企画・提供、情報発信をしています。

若者の長期農山漁村貢献活動 緑のふるさと協力隊



児童・生徒への環境教育活動 緑の学校



国内森林ボランティア 山と緑の協力隊



中国での植林活動 緑の親善大使

地球緑化センターの歩み

- 1993年 団体発足
中国内モンゴルでの砂漠緑化事業がスタート
- 1994年 緑のふるさと協力隊事業スタート
国内で初めて市町村自治体と連携を図った長期ボランティア活動を実施
- 1996年 森林ボランティア「山と緑の協力隊」スタート
(第1回は長野県赤沢自然休養林)
民間団体として初めて国有林で活動
- 1999年 特定非営利活動法人格を取得
- 2000年 朝日新聞社主催「第1回明日への環境
森林文化特別賞」受賞
- 2005年 愛知万博「地球市民村」パビリオン出展
- 2006年 オーライ！ニッポン会議主催
「第3回オーライ！ニッポン大賞」受賞
緑のふるさと協力隊短期体験プログラム
「若葉のふるさと協力隊」スタート
- 2007年 日中環境緑化交流センター
(中国河北省豊寧県) 開所
- 2009年 「田舎で働き隊！」事業(農林水産省)の
事業実施主体に選定される
- 2010年 「農山村再生・若者白書2010」(農文協)刊行
- 2015年 森林ボランティア「山と緑の協力隊」
第200回記念プログラムを開催
(長野県赤沢自然休養林)
- 2023年 設立30周年

多彩なニーズに応えます

1. 企業・組合の社会貢献活動・研修などのコーディネート
2. 大学のゼミやサークルなどグループ活動の支援
3. 体験学習のプログラム提供・講師派遣
4. 自治体、行政、他団体との連携など



情報を発信します

1. 機関誌「タマリスク」「緑の通信」の発行
2. 出版物の作成、貸出、頒布
3. ホームページ等による情報提供
4. SNS、YouTube等での情報発信

会員募集

緑で未来を育む活動を支えてください！

1993年に設立された地球緑化センターは、会員の皆様一人ひとりの思いを大切に、緑と人、人と人をつなぐ活動を続け、今年で33年目を迎えます。当団体の運営は、会員の皆様からの会費やご寄付、様々なご支援により支えられています。趣旨に賛同し、活動を応援して下さる方のご入会をお待ちしています。

入会金
1,000円

年会費

正会員 ★総会の議決権あり

個人会員 10,000円
団体会員 50,000円

賛助会員

個人会員 5,000円
団体会員 20,000円

入会方法

入会希望の方は事務局までメールまたは電話でご連絡のうえ、以下の口座へご送金ください。

▶郵便振替 00130-2-761479

▶三菱UFJ銀行 八重洲通支店(普) 1011076

正会員の特典

- ▶機関誌「タマリスク」「緑の通信」無料送付
- ▶地球緑化センター主催プログラムに優先参加、または参加費の割引があります。

クレジットカード寄付の受付を開始しました

「Syncable」の寄付システムを利用し、クレジットカードでもご寄付いただけます。

<https://syncable.biz/associate/gec/>

YouTube

緑のふるさと協力隊
チャンネル



緑のふるさと協力隊

1年間の農山村ボランティア

https://www.youtube.com/gec_midorinofurusato

note

緑のふるさと
協力隊ブログ

